平成29年度病虫害発生予察予報第11号（2月）

平成30年2月8日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	平年並(中央)、少(中西、西) 平年並(中央)、やや少(西)、少(中西) <u>多(西)</u> 、やや少(中央)、少(中西) やや少(西)、少(中央、中西) 平年並(西)、少(中央、中西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(西)</u> 、平年並(東、中央) 平年並(県下全域) 平年並(東)、少(中央、西) <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東)、少(西)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(中央、中西)、やや少(東) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(東、中央) <u>多(中西)</u> 、やや少(中央)、少(東) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(中西)、やや少(東) 平年並(中西)、やや少(東、中央)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> やや少(中央) 平年並(中央) 少(中央) 少(中央)

※ () 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 2月1日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞2月3日から3月2日

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

無効1ヶ月の平均気温は低い確率60%です。降水量は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は1週目は低い確率80%です。2週目は低い確率60%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	60		30 10
		降水量	30	40	20
		日照時間	30	40	30

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	80		10 10
2週目		60	30	10
3～4週目		30	40	30

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：2月3日（土）～3月2日（月）

1週目：2月3日（土）～2月9日（金）

2週目：2月10日（土）～2月16日（金）

3～4週目：2月17日（土）～3月2日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：平年並（中央部）、少（中西部、西部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年並、中西部、西部は少なかった。発病程度はどの地域も低かった。

(2)2月の気温は低めと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（中央部）、やや少（西部）、少（中西部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域も平年以下

であった。発病程度は県中央部でやや高かったが、中西部、西部は低かった。

(2) 2月の気温は低めと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（西部）、やや少（中央部）、少（中西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県中央部、西部で発生が見られた。西部は発生面積が多く、発生程度も高かったが実被害は見られなかった。中央部は発生面積、程度とも平年以下であった。

(2) 2月の気温は低めと予想されているため増殖は緩慢であり、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：やや少（西部）、少（中央部、中西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積は平年以下で少なく、発病程度も低かった。

(2) 2月の気温は低めと予想されているため、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度増加は少なく現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（西部）少（中央部、中西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積、発生程度とも平年以下であった。

(2) 2月の気温は低めと予想されているため増殖は緩慢であり、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多（西部）、平年並（東部、中央部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県西部では発生面積が多く、発病程度も高めであったが、東部、中央部の発生面積は平年並、発病程度も低かった。
- (2)2月の気温は低めと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はどの地域も平年並であったが、県中央部は発病程度が高かった。東部、中西部の発病程度は平年以下であった。
- (2)2月の気温は低めと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（東部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部で平年並、中央部、西部は少なかった。発生程度はいずれの地域も低かった。
- (2)2月の気温は低めと予想されているため増殖は緩慢であり、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中央部）、やや少（東部）、少（西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部でやや多めであったが、他の地域は少なめであった。発生程度はいずれの地域も平年以下であった。
- (2)2月の気温は低めと予想されているため増殖は緩慢であり、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（中央部、中西部）、やや少（東部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、どの地域も発生面積、発病程度とも平年以下であった。

(2)2月の気温は低めと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：やや多（中西部）、平年並（東部、中央部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部でやや多めであったが、他の地域は平年並であった。発病程度はどの地域も平年以下であった。

(2)2月の気温は低めと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（中西部）、やや少（中央部）、少（東部）

根 拠

(1)巡回調査では県中央部、中西部で発生が見られた。発生面積は中西部が多かったが、中央部はやや少なかった。発病程度はいずれの地域も高めであった。

(2)2月の気温は低めと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中央部）、平年並（中西部）、やや少（東部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られた。県中央部では発生面積がやや多め、発生程度もやや高かったが、東部、中西部は発生面積、程度とも平年以下であった。

(2)2月の気温は低めと予想されているため増殖は緩慢であり、現在の状況が続くと

考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（中西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られたが、どの地域も発生面積、程度とも平年以下であった。
- (2)2月の気温は低めと予想されているため増殖は緩慢であり、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では発生面積が多かった。下葉中心の発生であったが、発病程度も高かった。
- (2)2月の気温は低めと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査ではやや少なめの発生であった。下葉中心の発生であり、発病程度も低かった。
- (2)2月の気温は低めと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では平年並の発生であった。下葉中心の発生であり、発病程度も低かった。
- (2)2月の気温は低めと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査のごく一部で発生が見られた程度であり、発病程度は低かった。
- (2)2月の気温は低めと予想されているため、本病の媒介虫であるタバココナジラミの密度増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査での発生は見られなかった。
- (2)この時期、野外から施設内への侵入は無いため、現在、発生が見られていないほ場では新たな発生は無いと考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.